

子どもを真ん中にした地域ぐるみの学校支援で、学校が元気に！地域が元気に！

## とんぐい村の こみ・すく通信

令和2年8月7日発行 第13号  
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

### みんなの学校応援団 の活動を紹介 <その6>

更別小3年生社会科で地域の農業、酪農を学ぶ  
地域の野島さん、更別農業高校、保護者の方の支援を受けて

3年生になると初めて社会科を学びます。その中では「農家の仕事」という単元があり、更別村の自然を生かした畑作や酪農の仕事について調べます。

畑作の仕事では、保護者である木山さんからお話をお聞きし、さらに木山さんの農場も訪問し、たくさんの農機具を見せていただきました。

酪農の仕事では、更別区で酪農を営んでいる野島 隆さんが地域の講師として来校、お話をしていただきました。



講師の野島さん(左)とJAさらべつ酪農部部長の川原さん  
※野島さんの依頼でJAさらべつにも授業を支援していただきました。ありがとうございました。

牛乳の飲み比べは貴重な経験でした。また、乳飲料のミルク苺、ミルクランド北海道のノートやメモ帳などもたくさんいただきました。



現在は酪農家一戸あたりの牛の頭数はかなり増えましたが、戸数が37戸となり、昭和40年代に比べると7分の1に減ってしまったということです。一方、搾乳ロボットを入れるのには数億円が必要になるなど、いろいろなことを教えていただきました。

また、酪農の1日の仕事の内容や時間帯、搾った牛乳の行き先、牛の一生、牛の体重や乳量など、クイズも交えながら子どもたちが楽しく授業に取り組みるように工夫して教えてくださいました。

次の日には、学校応援団である更別農業高校の牛舎に行って酪農の仕事を学んできました。

講師は更別農業高校の生徒の皆さんたちです。授業の準備をしっかりとしていたようで、提示資料を用意してあたりテンポよく説明等がされたりして、児童が飽きないよう工夫されていました。



牛の胃の個数は何個ですか？  
正しいと思う個数のカードをもっているお兄さんの前に集まって！

また、特別に牛乳の手搾り体験もさせてもらいました。始めはおっかなびっくりだった子どもたちですが、牛のお乳を搾った後は「また搾りたい。」と積極的に取り組んでいました。「あったかい！」本物の体験をした感想でした。



実際に農業に取り組んでいる方々の言葉は重く、「食べ物は命あるものからいただいている」「感謝しておいしく、嫌いでも一口だけでも食べて」というメッセージもいただきました。また、酪農の現場では、牛を大事にし、かわいがっていることを実感したようです。地域の方からたくさん学ばせていただきました。